

Creation

クリエーション

知っておきたいキリスト教のことば (125)

創造 そうぞう

旧約聖書は創世記から始まりますが、その 1 章 1 節にはこのようにあります。「初めに、神は天地を創造された」。

神さまは一日目に光を、二日目に大空を、三日目に植物を、四日目に太陽や月、星を、五日目に魚と鳥を、そして六日目に獣と人間とを創造されたということが、聖書の最初に書かれています。

この出来事は歴史的(科学的)事実として捉えることではないというのが、聖公会を含む多くのキリスト教教派の考え方です。たとえば天動説と地動説、創造論と進化論のように相対する考え方を否定していくのではなく、「理性をもって」解釈していくことが必要なのだと思います。

それでは創世記 1～3 章に書かれている「天地創造物語」は、わたしたちに何を伝えようとしているのでしょうか。

それは、絶対的な創造者である神さまと、被造物である世界、特に人間の間には、大きな隔たりがあるのだということだと思います。人は神さまにかたどって造られたとされます。しかしアダムの罪によって、人間は神さまとの交わりのある場であるエデンから追放され、生きていかなければならなくなりました。

わたしたちが神さまに背き、神さまから離れているのは、その罪(原罪)のためだと、聖書は伝えます。

しかし創造者である神さまは、人間との関係を修復し、正したいと考えられました。その結果、イエス様をこの世に遣わすことを決断され、十字架の血によって罪を贖うことにされたのです。

イエス様を受け入れる人たちは、新たに創造されたとも言えます。聖霊に満たされ、神さまによって生かされるのです。

次回は「相続」です。楽しみに。



「天地創造」

ヤン・ブリューゲル(子)

(1601～1678 年)

初めに、神は天地を創造された。

(創世記 1 章 1 節)

